

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

フィールド言語学ワークショップ：テクニカル・ワークショップ

情報資源利用研究センター（IRC）ワークショップ

「デジタル・ヒューマニティーズを言語学に活かすには」

開催のお知らせ・募集要項

近年、日々進歩するデジタル技術を利用して、人文学の資料や知見を保存・公開・拡張する営み、いわゆるデジタル・ヒューマニティーズと呼ばれる分野が活発化しています。

特に、コロナ禍でフィールド調査に赴くことの難しい現在、これまで採集したデータを生かしたデータベースやアーカイブの構築、あるいはデジタル資料に基づく研究の新しい展開を考えている言語研究者も増えているのではないのでしょうか。

本イベントでは、人文学のデジタル化に取り組んできた若手研究者 2 名のトークを軸に研究手法の事例について知り、デジタル・ヒューマニティーズの手法を私たちの研究に活かす方法を考える機会を持ちたく思います。

デジタル・ヒューマニティーズにご関心のある方、データの収集方法や既存のデータの扱いに悩んでいる方、さらには既にデジタル・ヒューマニティーズの手法での人文学研究を行われてきた方など、本テーマにご関心のあるみなさまのご参加をお待ちしています。

記

1. 開催日時：2021 年 3 月 26 日（金）13:30-15:00

2. 開催場所：Zoom によるオンライン開催

※ 開始 1 時間前までに参加者に通知いたします。

3. 内容：

13:20 ごろ 開室

13:30-13:40 岩崎加奈絵（AA 研特任研究員）

「趣旨説明：言語資料デジタル化のさまざまな『壁』」

13:40-14:10 王一凡（東京大学大学院）

「デジタルデータを作って使うこと」

現在の研究やプロジェクトで関わっている、テキスト・文字・画像などに対する様々なデジタル・ヒューマニティーズ的な取り組みを紹介していきます。人文学の研究データをデジタル形式に落とし込むことで、どのような応用や分析の可能性が広がるか、具体的なイメージをつかんでいただく助けになればと思っています。

14:10-14:40 塚越柚季（東京大学大学院）

「テキストデータの構造化」

言語によるものの電子テキストは広く利用されています。自身で電子化したテキストを持っている場合もあるでしょう。文章がベタ打ちされたものから、形態情報や統語構造などを詳細に含むコーパスまで、電子テキストの形式は様々です。ここでは、テキストの構造を記述するために、XML というマークアップ言語とその周辺知識について紹介します。こうしたデータは、一定の決まりを守って作られれば、言語学はもちろんのこと他の研究分野でも幅広く利用されることが期待できます。また、私が現在取り組んでいる、サンスクリット文献『リグ・ヴェーダ』のテキストの構造化もあわせて紹介します。

14:40-15:00 全体討論

*終了後、30分程度はそのまま開室の予定です（ただし、当日の状況により変更の可能性あります）。

4. 参加資格：本テーマに関心のある、言語資料を用いる分野の学生・研究者
5. 定員：30名程度
6. 参加申込方法：下記 URL にアクセスして、専用フォームからお申し込みください。折り返し自動返信メールが届きますので、ご確認ください。なお、右記 QR コードからでも同じページにアクセスできます。



<https://lingdy.aa-ken.jp/activities/training-ws/210326-flws-tech/>

7. 申込締切：2021年3月25日（木）正午
8. 問い合わせ先：
「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築（LingDy3）」事務局
info-lingdy[at]aacore.net（[at]を@に変えて送信ください）
9. その他：
 - ・ワークショップは日本語でおこないます。
 - ・参加は無料です。

※ご不明な点がございましたら、上記「8. 問い合わせ先」までご連絡ください。

※過去のテクニカル・ワークショップにつきましては、

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/fieldling-ws/data-pro-ws> をご覧ください。

共催：

- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 情報資源利用研究センター
- ・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 基幹研究「多言語・多文化共生に向け

た循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」

以上